

<調査研究報告書タイトル>

児童自立支援施設の措置児童の被害実態の的確な把握と支援方策等に関する調査研究報告（第1報告）

<実施主体名>

主任研究者：野坂祐子（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

研究班構成員：山本恒雄（愛育研究所 客員研究員）

亀岡智美（兵庫県こころのケアセンター 副センター長）

研究協力者：浅野恭子（大阪府立子どもライフサポートセンター 所長）

藤原志帆子（特定非営利活動法人人身取引被害者サポートセンター ライトハウス 代表）

<要旨>

児童福祉領域における性的搾取被害の対象として、児童自立支援施設の入所児童に着目し、児童への性暴力・性的搾取被害の発見とその支援に関する実態把握を行い、性的トラウマ被害の発見とそれに対する効果的な支援のための方策を検討する。児童自立支援施設の職員への探索的なヒアリング調査を実施したところ、性的虐待や性的搾取を含む様々なトラウマに起因するとみられる児童のストレス反応や性的な行動化を含む問題行動に対する現場の取り組み状況は一律ではないことが確認されたため、全国的な実態把握に先立ち、現場の状況とニーズを理解するためのヒアリング調査を行い（調査1）、トラウマインフォームド・ケアに基づく児童向けの心理教育用教材を開発した（調査2）。

【調査1】

目的：児童自立支援施設における入所児童の性暴力・性的搾取被害に関する把握状況と具体的な対応や介入等の実態を探索的に把握する。

方法：全国児童自立支援施設協議会の推薦による施設職員への半構造化面接を実施。

結果と考察：8機関、のべ30名の職員からの回答から次の点が明らかにされた。

①女子の入所理由は性的虐待や性暴力被害を背景に持つ事例が典型で、そこから逃れるための家出・夜間徘徊等の途上で再被害や性的搾取に遭うパターンが認められる。②施設入所時における児童の性暴力・性的搾取被害の情報の把握状況はさまざまである。③性的トラウマによる特徴的な反応として極端な対人距離の近さや精神的不安定さが挙げられる。④現場では集団生活の安全・安定を維持しつつ、個別のトラウマへ対応することに苦慮している。⑤トラウマインフォームド・ケアを導入した実践例もあり、対応の流れを抽出して示した。

【調査2】

目的：調査1による現場のニーズを反映させた児童向け心理教育用教材を開発する。

方法：社会保障審議会児童部会児童買春・児童ポルノ被害児童の保護施策に関する検証

・評価専門委員会や研究協力者との協議により検討を行い、教材を開発した。

結果と考察：2種類の教材を開発した。①トラウマインフォームド・ケア「わたしに何が起きているの？～自分についてもっとわかるために～」、②性的搾取被害「わたしは、だいじょうぶ！～ほんとなかな？気をつけて、こんなワナ～」。研究班サイト「性的搾取からの子どもの安全 Seeking Sexual Safety for Children (3SC)」(URL <http://csh-lab.com/3sc/>) を構築し教材を公開した。